

## V. 稲城市の色彩のルールの考え方

## (4) 対象区分③の色彩

&gt;&gt;&gt; 既成市街地、三沢川左岸丘陵地、三沢川右岸丘陵地、平尾地域

&gt;&gt;&gt; 低層建築物(小規模)



## 色彩景観の現況

- ・市内の低層建築物は住居系が中心となっています。一部の沿道や多摩川周辺などを中心に業務商業、工業系などの建物も見られます。
- ・外壁基調色の色相は暖色系が中心となっています。一方で、規模の大きいものと比較すると、寒色系などの色彩も使用されています。
- ・彩度は基本的に低～中彩度となっていますが、一部の住宅や店舗、工場などで周辺になじまない高彩度色が使用されています。また、一部の住宅地ではやや明るめのパステルカラーの色調のものも見られます。
- ・壁面の高彩度色の使用に対して建物のメリハリをつけるため、屋根色については、低明度色や濃いグレー系の瓦が数多く使用されています。また、一部では、周囲になじまない彩度が高い色彩のものも見られます。

## 色彩誘導の考え方

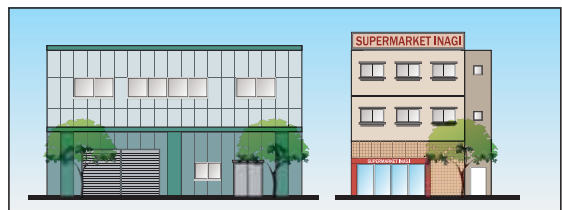
- ・住宅地や商業地など、それぞれの地域の景観特性を十分に把握し、周囲のまち並みと調和した色彩を基本とします。
- ・住宅地については、日常生活の場として飽きのこない色彩景観としていくとともに、落ち着いた住環境を維持していくため、暖色系の低～中彩度色までの色彩を基本とします。また、商業施設等については、周囲のまち並みに配慮しつつ、建物に表情を与える強調色やアクセント色を使用し、落ち着きのなかにもにぎわいのある色彩景観を誘導します。
- ・屋根面については、起伏に富んだ地形により、多くの場所から眺望することが可能なため、周囲のまち並みに配慮しつつ背景となる緑から突出しない、中明度、低彩度までの色彩とします。

【色彩誘導のイメージ】：周囲のまち並みに配慮しつつ、落ち着きのなかにも飽きのこない色彩景観とします。

## 【誘導前】



## 【誘導後】



色彩の範囲



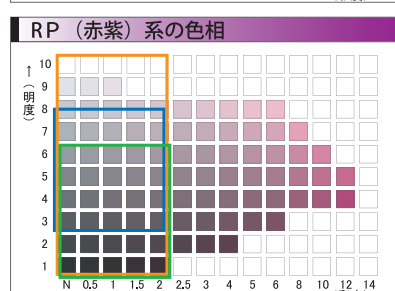
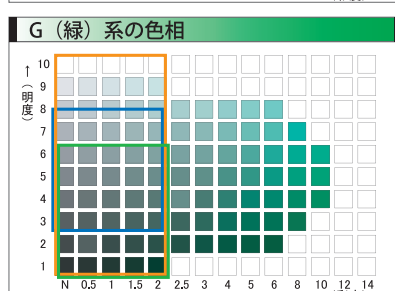
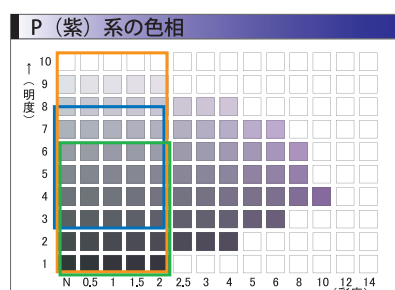
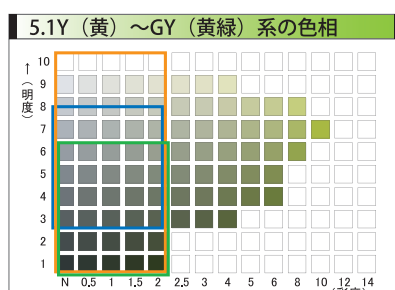
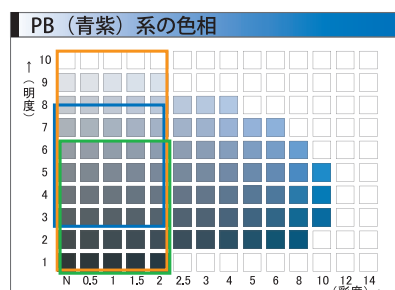
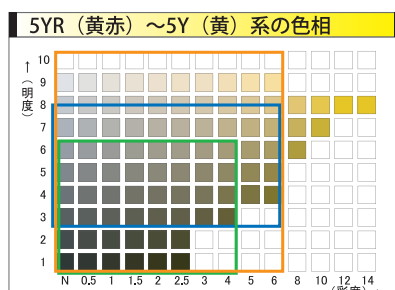
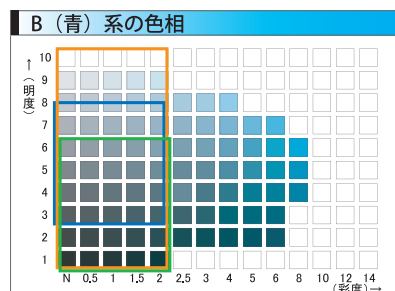
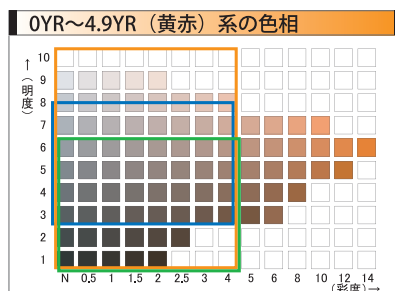
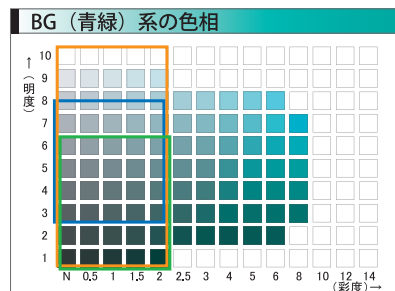
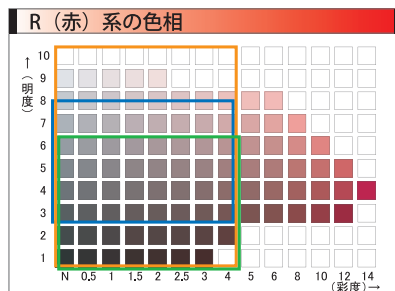
対象地域

- 既成市街地
- 三沢川左岸丘陵地
- 三沢川右岸丘陵地
- 平尾地域

対象規模

- 高さ10m未満かつ
- 延べ面積1,000㎡未満の建築物

ルールの適用部位・面積	色相	明度	彩度
外壁基調色	0R~4.9YR	3以上8.5未満	4以下
	5.0YR~5.0Y		6以下
	その他		2以下
外壁強調色	0R~4.9YR	—	4以下
	5.0YR~5.0Y		6以下
	その他		2以下
屋根色	0R~5.0Y	6以下	4以下
	その他		2以下



凡例

- 外壁基調色の色彩の範囲  
(外壁各面の4/5以上はこの範囲から選択)
- 外壁強調色の色彩の範囲  
(外壁各面の1/5以下で使用可能)
- 屋根色の色彩の範囲

※色票は基本的に各色相の中央色のみを示しています。

※色票の中央に使用可能範囲の境界線があるものについてはその値の「0.5」を示しています。

例えば下記の場合は

8   8.5未満となります。